

## 人工呼吸研究会のオープン化にあたって

渡 部 美 種\*

人工呼吸研究会も回を追って盛んになり、今まで特別な会員に限られて運営されておりました本会も、第5回から呼吸管理に興味を持たれるかたがたに広くご参加いただくこととなり、私が会長としてお世話をした関係上、今までの経過を述べさせていただきます。

人工呼吸研究会は、昭和54年、西邑信男教授の呼びかけにより、天羽、奥秋、岡田、吉矢、無敵、渡部の6教授、ならびに国立小児病院三川氏が集まり、呼吸不全も長期人工呼吸により、治療成績は著しく向上してきたが、まだまだ解決しなければならない多くの問題がある。これ等の問題を研究討議する場として、研究会を作ろうではないかという話になりました。

たまたま、Servo ventilator がフクダ電子株式会社により輸入され、急速に普及をみるにいたり、使用者側の意見を製作者側に伝え、さらに機器を高度化するとともに使いやすくする資料にしたいとの趣旨を申しだされたので、昭和54年7月14日、第1回人工呼吸研究会がフクダ電子株式会社後援のもとに発足しました。年1回の研究会は、回を重ねるごとに盛会となり第4回ま

で開かれましたが、幹事の間でこの会を長期人工呼吸に興味のあるかたがたに広く自由に参加していただくとともに、人工呼吸器を製作または輸入している会社のかたがたにも参加していただき、人工呼吸器で長期に呼吸を管理しながら、使用者側はどのような問題をかかえ、それを解決するためにどのような努力が払われているかを知っていただくとともに、製作者側もどのような新らしい機器、機構ができたのかを発表する場として、この研究会を利用していただこうと考え、会社側のかたがたにこの主旨をお計りしたところ、賛同を得ましたので、第5回人工呼吸研究会から、新しい型式で発足させました。ただ残念なことに、あらかじめ会場を予約しなければならなかつたために、機器を展示するスペースが取れなかつたことが折角参加してくださった会社のかたがたに申しわけなく思います。また研究会誌も今までご発表になった原文を集録しましたが、今回からは貴重なご発表を論文形式とし記述していただくようにお願いし、これが新しい形式の第一回の論文集になります。同好の各位には増え研鑽をつまれ、この研究会がますます活潑になり、優れた論文が多く集まることを念願いたします。